

「言語くん」新商品発売

見やすく、唄や計算機能も

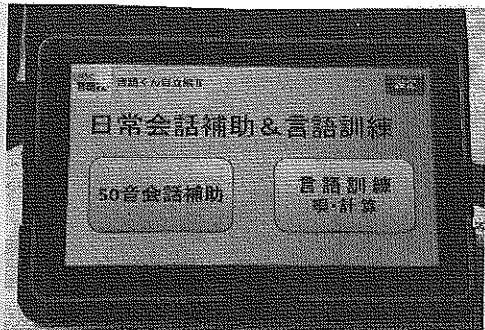
シマダ製作所

遠隔支援機メーカーのシマダ製作所(富岡市妙義町行沢264-1、嶋田馨社長 ☎0274-7333044)は、脳卒中や交通事故で失語症となった人のコミュニケーション支援装置「言語くん 自立編」をバージョンアップ。「言語くん 自立編II」として20日から販売開始した。手のひらサイズの従来機から約3倍に大きさを拡大。一度に表示できる情報量や、操作性が大きく向上した。新たな機能も搭載し、日常会話の補助や自宅での言語訓練に、さまざまな使い方が可能になった。障がい者の自立支援道具として助成対象。同社は10日間の無料貸し出しなどを通じ普及を図る。(松本英子)



嶋田社長

言語くんの会話補助機能は、文字を入力するとそれを読み上げ、音声で相手に伝える。「明日は病院です」など、よく使う文章を家族やST(言語聴覚士)が入力・保存しておけば、ワンタッチで呼び出せる。従来のかな変換に加えて漢字変換も可能になり、使い勝手が増した。言語訓練機能では、日常生活に密着した単語や簡単な文章を表した絵カードを約750種類搭載。文字が大きく見やすくなり、「聞く」「話す」「書く」練習がスムーズに。失語症の人は右まひが多いことに配慮、重要なボタンは左側に置いた。さらに、新しく加わった機能が唄機能と計算機能。唄機能は童謡や唱歌50曲が入り、カラオケとして使える。失語症の人は言葉が出なくても歌は歌えることがあり、文字を追いながら歌うことで、楽しみながら言語訓練ができる。



従来機の3倍、約18センチ×11センチの大きさになり、使い勝手が増した。言語訓練機能では、日常生活に密着した単語や簡単な文章を表した絵カードを約750種類搭載。文字が大きく見やすくなり、「聞く」「話す」「書く」練習がスムーズに。失語症の人は右まひが多いことに配慮、重要なボタンは左側に置いた。さらに、新しく加わった機能が唄機能と計算機能。唄機能は童謡や唱歌50曲が入り、カラオケとして使える。失語症の人は言葉が出なくても歌は歌えることがあり、文字を追いながら歌うことで、楽しみながら言語訓練ができる。

06年に発売した前機は、失語症の人自身が開発に携わり、約3000台を販売。発売当初に購入約5年かかって日常会話ができるまで回復した人もいた。今回はさらに患者やST、家族の声を盛り込んで改善した。本体価格は13万8700円で、障がい者の日常生活用具給付対象となるため自己負担額は約5万円。3回・5回の分割払いが可能で、10日間の無料貸し出しも行う。

同社の清水香織取締役は、「従来機よりはるかに使やすくなった。失語症の人は何か一つもできると自信につながる。そのきっかけ作りに役立てれば」と話している。